

Park-O 大会 in Chichibu & 森林育林体験ツアー Part  
Park-O 大会 in Tochigi & 森林育林体験セミナー

## 1. はじめに

このイベントは、現在様々な地域でトラブルを起こしている、土地所有者への渉外活動や、私有地である森林内でのマナーなど、そして活動フィールドの森林荒廃など、今後オリエンテーリングを普及していく上で、避けて通ることは出来ない問題について、参加者のみなさんと一緒になって考えていく機会を提供できれば、と考えたことから浮かびあったイベントです。

それは、私有地であり、かつ木材生産を目的とし様々な作業が施されてきた森林の、渉外方法や利用上のマナーといった“オリエンテーリング愛好者自身”の問題から、今日貿易の自由化に伴い外国産木材におされ、木材産業が衰退し下刈り・枝打ち・間伐などの作業が行われず放置林が増加し、皆さんがご存じのように森林荒廃が進んでいる“活動フィールド”の問題を、オリエンテーリング愛好者の皆さんに、これらの問題を認識して頂いて、将来未永く森林がオリエンテーリングの競技場であり続ける為に、是非多くの皆さんに以下のことを意識して頂ければ、と考え、その導入口として本イベントを開催しました。後者の森林荒廃は、“木材生産”としての機能が低下するだけでなく、土砂災害を食い止めたり、水源を涵養したり、二酸化炭素を固定したり、そしてレクリエーション環境を提供するといった、“国土保全機能”や“生活環境保全機能”、そして“保健保養機能”などの様々な国民生活や生産活動に必要な機能が失われ、これらの機能が失われれば、私たちの生活は成り立たないと言えます。

そしてこれらは、どこか遠くで起こっている問題ではなく、私たちの身近で、そして密接に関わってくる問題です。今まで軽視してきたといっても過言でないこれらの問題を、今や真剣に考えていく、そして行かなくてはならない時期に来ているのではないのでしょうか。このイベントに参加することによって、また残念ながら参加できなかった方も、是非このイベントを介してオリエンティア自身だけでなく、オリエンテーリングの競技と森林との関係について見直してみる機会を提供できれば、主催者にとってはこの上ない喜びであります。その為、是非多くの皆様が一読頂けると幸いです。

今年度の第一弾は、秩父の町並みや深流、武甲山・秩父連山を一望でき、夏でも涼しい高原での爽やかなオリエンテーリングだけでなく、昼はダイナミックな山並みが、そして夜は秩父の夜景・眼前に迫る星空という絶景の『秩父高原』で開催し、第二弾は富士山に並んで美林で有名な日光～矢板に続く栃木県塩谷町にある宇都宮大学演習林にて、高原林業地として有名な上に大学演習林という林業を学ぶにもオリエンテーリングを楽しむにも絶好の地域で丸一日使ったイベントを開催しました。この趣旨のイベントは、今後も継続して開催していこうと考えていますので、今後もよろしくお願ひいたします。

## 2. オリエンテーリング大会

[開催日] 2000年6月3日(土) 11:00～14:00  
2000年6月11日(日) 9:00～13:00  
[開催地] 埼玉県秩父郡横瀬町『埼玉県民の森』  
栃木県塩谷郡塩谷町『宇都宮大学船生演習林』  
[地図] 『埼玉県民の森 ver.1.1』  
『宇都宮大学船生演習林 ver.1.1』  
(いずれも1:5000/5m/3段階/2000年6月  
森林育林体験研究会作製)

### 2-1 大会概要

#### 2-1-1 「Park-O 大会 in Chichibu」

秩父市街から至近で、地元住民はもちろん埼玉県民の憩いの場となっている秩父高原稜線部に位置する埼玉県民の森を舞台にして、本イベントは開催されました。南には「芦ヶ久保」、西には「四番金昌寺」と山岳系トレインが隣接するこのトレインは、山頂部に位置することから幾分傾斜も揺るやかで、特徴物が豊富で随所に微地形も広がり、かつ林相も県民の森ということで非常に変化に富んでおり、非常にバリエーションに富んだ森を駆け抜けるコースとなっていました。また、県民の森ということで遊歩道も発達しており、公園として、そして人工林として手入れの行き届いた美林を中心にスピーディーなコースが用意され、初夏の爽やかなオリエンテーリングを多くの参加者が楽しんでいました。

なお、季節の草花の群生地や、除間伐作業地域は立入禁止区域とし、この立入禁止区域周辺にはコースを回さないように配慮したりし、参加者へも意識を高めてもらうように配慮しました。また、群生地以外にも花卉をともし植物が見られ、また自然散策・植物観察等を楽しんでいる利用者がいるので、過剰に競技に集中せず環境へのご配慮も呼び掛けたりしました。

ちなみに、今回のイベントではより森林・木材に興味を持って貰えるように、商品として1位には、地元西川材(江戸の西方から流れてくるため、この名が付いた。飯能・名栗などで生産された優良なヒノキ材の総称)使用木工品「フォットスタンド」、2位には、地元西川材ヒノキから抽出した「消臭スプレー」3位には、地元西川材使用木工品「マグネットセット」、特別賞には、地元西川材使用「ヒノキの湯のもと」をプレゼントしました。

また、参加賞として今日様々な利用法で注目されている地元材を用いて炭窯で焼いた、「黒炭」(通常1kgで1000円相当)と「木酢液」(通常500mlで700円相当)を配布致し、大好評で全て配布しきりました。

#### 2-1-2 「Park-O 大会 in Tochigi」

宇都宮大学船生演習林の南部を競技エリアとして設定して行われ、総じて可能度の良好な人工林が続く山林で、地形的変化に富んだ丘陵地帯で、直進・コンタリング・尾根辿り・尾根切りなどバリエーションに富んだコースセットがなされ、本格的なオリエンテーリングを各参加者とも楽しんでいました。

なお、本トレイン内には林業地に位置する大学演習林であると言うことで架線集材機が設けられた伐出作業

地や、植林地（新植地）も見られたので、立入禁止区域とするともに現地もテープで囲い、また手入れの行き届いた適正な作業が施されている優良林分への通行はもちろん、枝打ちが遅れたりした放置林分などを通行させることによって、林業作業への意識付けが出来るようにコースを配慮した。

また、今後大学演習林で地域住民などへの公開講座などでの事業での利用を視野に入れて、初心者にも容易に回れるフリーポイント形式の、各ポイントで出題されたクイズと、ゴール後に行うゲームによって得点を争うクイズOを設けました。クイズは森林や林業、そして地域の自然環境に着目できるように配慮した問題を設け、コースは宿舍や事務所周辺、また樹木園内のみとして、子どもでも安全に楽しんで回れるように配慮しました。参加者の反応として大方良好であったが、成人の参加者にとってはオリエンテーリング経験者クラスの森林内へ立ち入る姿に触発されてか、物足りなさを感じる参加者も見られたが、総じて好評であったと判断できました。

## 2-2 成績

### 2-2-1 「Park-O 大会 in Chichibu」

MAクラス（2495m）50名

斜体：特別表彰者（40,50,60,70代のTOP）

1	金澤 拓哉	21	TUPOLC	0:18:49
2	Jim Bostrom	23	東北大OLC	0:19:46
3	竹内 藤雄	35	IF武蔵野	0:21:56
6	清水 潔	48	横浜OLクラブ	0:24:05
11	小野 盛光	54	三河OLC	0:28:28
22	高橋 厚	70	多摩OL	0:32:26
29	山西 一徳	66	所沢OLC	0:33:40

WAクラス（2175m）8名

1	池田和香子	22	幹事会へGO!!	0:25:03
2	古澤 久美	51	つるまいOLC	0:28:06
3	澤田 慶子	28		0:33:19

Bクラス（2135m）12名

1	北島 聡之	19	東京農大OLG	0:21:00
2	若梅 節子	51	横浜OLクラブ	0:25:26
3	柴田 喜一	65	つるまいOLC	0:25:50

### 2-2-2 「Park-O 大会 in Tochigi」

MAクラス（距離 4200m、登距離 220m）21名

1	松下 愛則	じょじょじ	0:29:50
2	竹澤 聡	杏友会	0:33:18
3	丸山 哲史	館林OLC	0:34:39

WAクラス（距離 4200m、登距離 220m）1名

1	阿部 真弓	杏友会	0:59:10
---	-------	-----	---------

Bクラス（距離 2600m、登距離 100m）8名

1	村瀬 千春		0:30:33
2	船津丸弘樹	宇都宮大学	0:32:43
3	寺尾 孝	横浜OLC	0:37:24

クイズ（7controls）4チーム

1	山崎弘美	減点1点
2	浜島友恵・浜島康晴	減点2点
3	浜島康稔・浜島康記	減点3点

## 3. 森林育林体験

〔開催日〕 2000年6月3日(土) 14:00~15:00  
2000年6月11日(日) 13:00~15:00

〔開催地〕 『埼玉県民の森』森林学習館  
『宇都宮大学船生演習林』学生宿舍および展示林

### 3-1 「森林育林体験ツアーPart Ⅰ」

開始直前にあいにくの豪雨に見舞われ、予定の「下草刈り」は残念ながら中止となりました。しかし、会場である森林学習館にて本イベントの開催趣旨やオリエンテーリングが行われる森林の整備、そして国土保全や水源涵養などの森林の公益的機能発揮に欠かすことが出来ない「林業」について簡単なレクチャーを行いました。また、参加者各自で森林学習館の展示やクイズなどを楽しんで貰いました。

### 3-2 「森林育林体験セミナー」

昼食休憩後開始した森林育林体験セミナーは、まずイベント会場で主催者の一人の宇都宮大学大久保達弘助教授より、船生演習林の概要、林業の現状、育林作業の概要などに関して説明を受け、育林体験の道具（ヘルメット、手のこぎり、高枝用のこぎり、はしご）を手に、スギ人工林に移動した。なお移動途中、森林の働きや林業の役割などを話して頂き、またレース後半に走った地元ボランティアにより下草刈りが行われて出来上がったスーパーAの林などを見たり、展示林で自然観察したり、苗畑や樹木園を見学した。

作業地に着いたら、本イベントに参加しながら運営を手伝ってくれた宇都宮大学学生と、主催者である東京大学秩父演習林の澤田晴雄氏により、枝打ちのダイナミックなデモンストレーションと、枝打ち方法と注意事項の説明を受け、枝打ちを体験した。

枝打ち体験は約1時間、一人当たり3~8本の枝打ちを行い、中には梯子に登り高い位置まで丁寧な枝を打つ熱心な参加者もあり、あっという間に予定の時間がたち、最終的には約200本、0.1ha程の枝打ちをすることが出来た。参加者のほぼ全員が最後まで枝打ちに熱心に取り組み、結果として自分たちで造り上げた枝打ちが行われて見通し利く“スーパーA”の林に、歓喜の音が沸き上がった。それと共に、参加者の爽やかで満足げな表情が非常に心に残っています。競技者にとって普段は走りすぎるだけの森林が、林業従事者の汗のじむような作業と努力の結果、美しい人工造林地が出来た上がっていることを実感できる貴重な経験となったことと思われます。

## 4. 意見交換会

〔開催日〕 2000年6月3日(土) 20:00~22:00  
2000年6月10日(土) 18:00~22:00

〔開催地〕 埼玉県秩父市埼玉県青少年総合野外活動センター  
『宇都宮大学船生演習林』学生宿舍

〔配付資料〕 「地元対応（多摩OL）」、「東京都トレインおよび地図管理規程案（東京都OL協会）」、「我が国のオリエンテーリング界における土地所有者対策の現状（規約・講習会テキスト）」、「関東近郊トレイントラブル表」、「アクセス権（自然環境享受権）」

## 4-1 「森林育林体験ツアーPart 1」

オリエンテーリング界が抱え、放置することの出来ない問題である「地元渉外方法」、そして私有地であり樹木畑である森林の「利用上のマナー」について、各地でどのような問題が起こっているか、そして対策としてどのようなことを行っているかを、参加者の皆さんから公表して頂き、オリエンテーリング界の現状に対して共通認識を持つことを目的として催されました。具体的な対応策や、解決策について今後の課題としておき、第1回ということできりあえずトラブルが起きても公開されず放置されやすいOL界の特性から、問題提起をする上での現状の把握につとめました。

補足資料として、現在の日本OL界の競技規則や指導者養成テキストにおける地元渉外やマナーの取り扱い方や、北欧諸国において土地利用を認めるアクセス権（自然環境享受権）の紹介、またその上での森林利用の制限などを紹介した冊子を配布しました。

交換会の流れは、高橋厚氏より多摩OLと東京都OL協会による対策の現状などをお話いただき、その後各地で起こっているトラブルなどを参加者から出していただき、情報の共有につとめました。時間的な制約があるため、特に解決策などを見出すのではなく、あくまで各地で起こったトラブルを教訓に出来るように、現状をお互い認識しあることに論点を絞りました。

主に以下の様な内容が話し合われました。なお、時間の都合上などから、十分な皆さんからの発言を頂くことが出来ず、また主に関東に内容が偏っている傾向にあります。ご了承ください。

### [ 地域住民・土地所有者への対策 ]

地元対策には、土地所有者と、地域住民への2種があり、地図作製者だけでなく地図利用者もこれを十二分に意識する必要がある。

別荘所有者は特に土地所有意識が強くより意識が必要

自分から第三者にならない。人にあったら常に挨拶し、できるだけ身近な人間関係を築き上げる

事前に了承があったかによって、対応も変わってくる。お互い全く知らない人同士では障壁が高くなるだけなので、事前の交渉は必要不可欠。

プランナは一、競技性ばかり気にせず、トラブルはもちろん、その環境へのインパクトを常に意識しなくてはならない。土地所有者・自然環境あつてのオリエンテーリングであるから、過度の競技性追求のために環境や地元住民などへ負荷を与えるコースセットは慎まなければいけない。

### [ 利用上の考え方・今後のあり方 ]

「地図」を購入しても、その地図は見る権利しかない。その地を利用し、入る権利は地元交渉などをしてこそ生まれる権利である。

都道府県協会に届出・報告することによるメリットを求めること自体ナンセンス。報告することにより、トレインのコントロールやトラブルなどの情報を把握する事に意味がある。よって、トラブルが起こったら、必ず報告すべきである（というのも、土地所有者にとって見れば、オリエンティアはあくまでオリエンティアという人括りの団体とみなされるので、サークル・クラブ内で解決・処理しても、その情報はオリエンテーリング界で共有されなくてはならない情報である）オリエンテーリングでトラブルの可能性のある地域

は、唯一の伝達手段ある地図に表記されなくてはならないから、可能性のある要因は調査時に判断されなくてはならない。よって、調査者は森林や自然に対する知識を十二分に持ち合わせているべきである。

「良いコース」は競技性の追求だけでなく、環境への負荷、土地所有者・地元住民への配慮をも包含して評価されなくてはならない。

合宿や大会などで育林体験・簡単な講習の場や機会の提供

学生は機会が多いのに自然への意識が低い：サイクルが早く教訓などが伝承されないが為に、多々トラブルを引き起こすので対策が必要。

### [ 今後の課題 ]

渉外活動のあり方(某森林組合より協会へマニュアル作成の要請あり)

オリエンテーリング愛好者のマナーの醸成  
渉外活動の徹底、中小規模の練習会における地元への対応  
練習会レベルのトレインコントロール

### [ 林野の立入制限の形態 ]

純粋な立入禁止

- ・野生動植物の保護（自然保護）
- ・ホダ場、わさび田、新植地等の人工栽培地
- ・きのこ、タケノコ、山菜、果樹類の天然栽培地
- ・生活用水保全（用水路・湧水周辺）
- ・林業作業地

人為的なトラブル

- ・事前交渉、届出不備
- ・トラブル情報共有不備、未確認による再発
- ・の認識不足に起因するトラブル
- ・立入そのもの  
（所有権の侵害：国有地・公有地・私有地いずれも）
- ・生活環境の侵害（住居周辺への立入・騒音）
- ・ゴミ、テープ誘導などの放置  
（ゴミは地域への投棄も含む）
- ・自然環境・工作物への負荷（攪乱）

## 5. アンケート結果

### 5-1 選択式回答

参加者全員にアンケートを配り両イベント終了後に記入して提出してもらいました。オリエンテーリング・森林育林体験・意見交換会・宿泊について参加前の期待度と参加後の満足度を回答してもらいました。その結果、オリエンテーリングへの期待は森林育林体験への期待より未だ強い傾向にあります（約1割増）森林育林体験を実施した6/11は満足度が期待を約1割増加する結果となりました。（その他は紙面の都合上省略させていただきます）

### 5-2 自由記述式回答

自由記述の回答は参加者の直接的な生の声であり貴重な意見であるので一部抜粋して記載します。ここから何かを感じ取って頂ければ幸いです。

[ 2000/6/3：育林体験の期待・惹かれたもの ]

- ・OLを今後も続けるためには森林とか地権者との良好な関係は不可欠です。そのために理解を深めたい

- ・少しでも役に立ちたい
- ・ルート上の育林地で育林の立場から見てOLがどのような影響を与えるのか実物で確認できると思ったから。
- ・森林が作られていく過程が知りたい
- ・オリエンテーリングと林業との相互理解が必要
- ・林業とはどんな仕事か 与作の気持ちを知られたかった
- ・畑仕事は日常的ですが、山仕事は体験がないので是非身につけたい
- ・草刈りとか試してみたかった
- ・オリエンティアにとって森を知ることは重要ですので
- ・自分の植林した木が大きな林を構成することへの期待
- ・林を育成する大切さ

[ 2000/6/3 : 意見交換会の期待・惹かれたもの ]

- ・他クラブの取り組み方を聞いて自分たちの今後の参考にする
- ・林施業、もしくは所有の価値に対するOLの影響と持ち主の意識について事例の分析から現状が分かるかと思った。OLは競技的になるほど山を破壊しているが、そのことがどのくらいまずいのか知らなかった
- ・トレインの保全について
- ・他のクラブ等で直面している問題を聞ける

[ 2000/6/3 : 意見交換会で満足したもの ]

- ・みんなそれぞれ苦労していると感じた。さてこれではこれからどうするか考えると、力のなさを感じます。地元対策をやらなければいけないとは思いますがどこまでやれるのか？ その回答を見つけれられない。少しずつやれることからやるしかないが。OL組織の弱さを感じます。
- ・権利についての意識の中で具体的にどう行動していくかよく検討できて良かった。但し、OL利用は本質を認識してもらったらおそらく日本の林業では認めてくれないと15年前から思っているので、山林所有者によく分かってもらおうとするのも限界がある。全貌はとても伝えられない。
- ・地権者等との関わりがここまで複雑なものとは思わなかった

[ 2000/6/3 : 総評 ]

- ・何回も数多くやることでしょか
- ・今回のような討論は今後も行うべきでしょう
- ・実際の作業体験のできるチャンスを改めて企画して下さい。
- ・継続してやって行きましょう
- ・[ 2000/6/11 : 育林体験の期待・惹かれたもの ]
- ・やったことのない枝打ちなるものへの興味
- ・成果が目の前で上がること、難しくない、大勢でやる楽しさと安全性
- ・Aの林を作る 来年走ってみる
- ・少しは森林のために役立っていると思って。
- ・子供と共通で森林の大切さを自覚できる。
- ・育林体験であればまず間違いなくオリエンテーリングと育林との影響しあう具合をじっくり見ることが出来る。そしてこれが大変大切なことだと思ったから。

- ・前前から森林育成に興味があったため

[ 2000/6/11 : 育林体験の不満・改善点 ]

- ・もっと時間を取っても良かった。とても楽しかった。仕事でやっていける人は大変だと思う
- ・枝打ちだけでなく、下草がりとかもあると良い。長年OLやっていて林の事をぜんぜん知らなかったので楽しかった。

[ 2000/6/11 : 総評 ]

- ・今回初の参加で枝打ち体験でありましたが次回は他のメニューに是非参加させていただきたい
- ・多少なりとも森林への恩返しが出来ると思います。機会があれば草刈りも参加したいと考えています。もう少し参加者が多いと持っていました。残念。
- ・オリエンテーリングのメインレース数回分の価値はあるので、冬期間大きな大会にぶつけてでもやるべきことだ。どうせ、育林体験初心者コースでは50人くらいしか枠が取れないだろうから参加者が少ないのは一向に構わないのではないが。
- ・丸一日森林体験したい

## 6. 今後の方向性

今後の方向性としては、今日に至るオリエンテーリング界の土地所有者や地域住民への渉外活動や、オリエンテーリング競技者の自然環境に対するマナーはいずれも万全の状態とはいえない状況である。また、2005年に控えた世界選手権に向けては、自然保護団体などの視線が向けられている場での開催となるが、林床植生などへの影響のみならず大鷹などの野生動物への影響も十二分に考えられる為に、安易に「自然との共生したスポーツ」と打ち出すことは危険が伴うと考えられよう。その為に、オリエンテーリング競技による人為的な自然環境の攪乱による影響を把握し、自然環境に配慮した競技エリアの設定などを行うなど、万全の状態を備えることが必要であると考えられよう。その世界選手権の為に、これを機会に今まで放置されていたオリエンテーリング界が抱える問題を少しずつ解決するべく活動を今後も継続して行っていく予定である。多くの皆様のご参加とご協力を心からお願い申し上げます。

## 7. 予告

現在次のようにイベントが計画されております(予定)。また、さらにこの輪を広げるべく様々な地域で同趣旨のイベントを開催したく考えておりますので、興味をお持ちの方は是非お気軽下記までお問い合わせください!!

2000/12/9

Park-0 & 森林育林体験ツアーPart  
埼玉県秩父市

2001/1/6

森林ボランティア&オリエンテーリング  
愛知県岡崎市

問合せ : 木俣知大(きまたともひろ)

39000004@nodai.ac.jp Phone 090-2164-8627